

ワークライフバランスとドラクエ

Work-life balance and DQ



伊藤雅一 *

大学学部生の頃、部活でハングライダー（グは2つ、略称ハング）にはまっていた。よくパラグライダーと混同する人がいるが、前者は三角形の飛行機のような形、パラグライダーはパラシュートのような形をしている。どちらも人が空を飛ぶための道具で、コンディションが良ければ高度1000m以上まで上昇でき、天空の城ラピュタでムスカが言う「人がゴミのようだー」のように人や車がとても小さく見える。こんな体験をしてしまうと授業の単位はまあまあとなる。土日はハングなので勉強はできず、平日はお金がそれなりにかかるので週3でバイトをすると勉強の時間はあまりない。なんとか単位を取るために昼はしっかり勉強。バイトのない日は、学生実験のレポートなどを書いていると1週間みっちり埋まる、そんな生活を3年生までしていた。

4年生になって研究室に入り、黒川浩助先生の元で指導を受けるようになると、研究が面白かった事もありハングはやや引退。週6か週7で、朝は遅くても夜遅くまで研究室にいた。長く居過ぎのようにも見えるが、週に数回、研究室で鍋パーティなどやっていたので、結構楽しかった。海外出張にも結構行かせてもらった。結局、博士後期課程まで進んだが、

このおかげで今の基礎を作ることができたのだと思う。

卒業して東工大で働き始めると、さすがに毎週土日働くのはやりすぎかと思ひ減らした。この頃は、日本人は働き過ぎ、という話題が多かったのではないか。「ワークライフバランス」といった言葉もこのころにあったと思う。ネットを検索してみると、本来の意味は仕事と生活のバランスを取って両方を充実させる意味とのことであるが、「バランス」とすると楽をするように捉えられがちなので、最近「マネジメント」も使うらしい。この「ワークライフマネジメント」を目の当たりにしたのが、フランスに滞在させてもらった時であった。

運良く(?)日本学術振興会の海外特別研究員に採択され、フランスのシャンベリー近くにある原子力代替エネルギー庁/国立太陽エネルギー研究所(CEA / INES)に2年間滞在させていただいた。もちろん研究をするのがメインであるが、フランスの研究員の生活は日本とはだいぶ離れていたのが印象的であった。日本では、仕事の後に何をするかと言ったら日本酒を飲みに行くくらい(そんなことはないと言う人もいると思うが)であるが、フランスでは例えば水曜日は仕事を定時で切り上げて、地域のクラブ活動に参加する、といった人が多い。INESの終業時刻は16:35であるが、ご存じのように夏はサマータイム制があるので15:35と同じ太陽の高さ、さらに緯度が高いので元々昼も長い。よって、終業後でも太陽の下で自転車に乗ったり、ハイキングに行ったり、スカイダイビングをしたり、飲みに行ったり、といった感じである。冬もシャンベリーは近くにスキー場が多くあるので、仕事の後にスキーもできた。こう言うとあまり仕事をしていないようにも見えるが、仕事中は皆さんかなり集中して仕事をしていて、特に、事務員さんの手際の良さ



初飛びの写真、獅子吼高原にて

* 福井大学学術研究院工学系部門工学領域電気・電子工学講座准教授

が印象的であった。先ほどのワークライフマネジメントであるが、平日と休日、という分け方だけでなく、日中と夕方（アフター5?）、という分け方で、ワークとライフを充実させていた。

話は逸れるが、一応教員であるので、学生には人生はドラクエと一緒にだと言っている。経験値が見えたり、レベルが上がったりするわけではないが、頑張っていれば経験値があがり、レベルが上がっていく。また、学生にとってはあと60年も人生があるので、どの力の経験値を積むのか、よく考えなさい、

といった風である（先輩方におまえが言うなと言われそうではあるが）。また、勉強だけでなく、趣味もしっかりとと説いて、人生の幅が広がり豊かになるよう、ワークとライフをマネジメントしてもらえればと考えている。

福井に来てみると近くにパラグライダースクールがあったので、パラグライダー（略称パラ）を昨年からはじめた。ショップに行くと年配の方も多く、長くできそうなスポーツである。